

1 西天竜幹線用水路・円筒分水槽群

(にしてんりゅうかんせんようすいろ・えんとうぶんすいそうぐん)

所在地: 上伊那郡辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市

築造: 大正8年～昭和14年

管理者: 上伊那郡西天竜土地改良区

この水路が造られる前は、養蚕で生計を立てていた当時の農家の人達には「自分達が食べる米は自分達で作りたい。」という強い思いがありました。しかし、井戸からは飲み水程度しか出ず、低地を流れる天竜川から水も引けず、長い間水不足で悩んでいました。

そんな中、大正8年から昭和14年にかけて、天竜川の岡谷市川岸より取水し、辰野町から伊那市に至る天竜川右岸段丘上全延長約25kmに及ぶ幹線用水路を造る工事が実施されました。併せて開田が行われましたが、そのほとんどが人や家畜による作業だったので、水田の水持ちが悪く、水争いが絶えませんでした。そこで水の分配管理をするために造られたのが円筒分水槽です。水田の面積に応じた穴の数により公平な水の供給ができるようになりました。

その後、ほ場整備等が行われたことや土地利用が変化してきたことで、円筒分水槽の数は減ったものの、今でも水供給の一役を担っています。

現在の円筒分水槽の設置数は約35基。これは、全国最大規模の円筒分水槽群であり、平成18年度には土木学会選奨土木遺産に認定されました。

